

令和5年度第1回佐久医療圏 地域医療構想調整会議	資料
令和5年9月1日	1-2

各医療機関における対応方針について
(佐久圏域)

目次

<病院>

- p. 1 長野県厚生農業協同組合連合会浅間南麓こもろ医療センター
- p. 3 川西赤十字病院 ※独自資料有
- p. 7 佐久市立国保浅間総合病院
- p. 9 くろさわ病院
- p. 11 雨宮病院
- p. 13 佐久穂町立千曲病院 ※独自資料有

<有床診療所>

- p. 17 柳橋脳神経外科
- p. 19 花岡レディースクリニック
- p. 21 中澤眼科クリニック
- p. 23 博愛こばやし眼科
- p. 25 小諸医院

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

1

医療機関名：長野県厚生農業協同組合連合会浅間南麓こもろ医療センター

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
246	246	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
246	12	203	31	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	42	8.5	229	14.6	6	3.2	10	14.8

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科（胃腸内科）,腎臓内科,脳神経内科,内分泌内科,糖尿病内科（代謝内科）,外科,乳腺外科,消化器外科（胃腸外科）,肛門外科,脳神経外科,整形外科,形成外科,小児科（新生児）,小児科,小児外科,産婦人科,眼科,耳鼻いんこう科,皮膚科,泌尿器科,精神科,歯科口腔外科,リウマチ科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科,病理診断科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

・当院がある小諸市は、長野県の東部に位置し、人口4万の都市ですが、周辺農村部を含めると約10万の医療圏となっています。当院は、この10万の医療圏の急性期病院として、年間2,000台以上の救急車の受入から、地域ケア、在宅医療、保健予防活動に至るまで、幅広い地域医療を実践しております。

②課題

- ・安定した患者数の確保。
- ・地域の医療ニーズに則した医療の提供。
- ・紹介患者の確保、逆紹介の推進。
- ・医師の減少

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	○
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	◎
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

・小諸市を中心とした浅間南麓地域における二次救急医療体制を維持
 ・急性期病床の集約化し、地域包括ケア病床を増床することで、急性期病床と慢性期病床の役割分担を明確にし、効率的な急性期病床の運営
 ・佐久医療圏でリハビリテーションが必要な患者を受け入れるため、回復期リハビリテーション病床を導入
 ・他医療機関との密接な連携
 ・急性期から回復期、在宅までの幅広い医療体制の構築

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	
廃止	
検討中	

←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）

←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）

←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④【再稼働】を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

【検討中】を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	12	12	0		12	0	0	
急性期	203	203	0		203	0	0	
回復期	31	31	0		31	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	246	246	0		246	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例：2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

3

医療機関名： 川西赤十字病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
84	51	33	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
84	0	0	51	33	0

(2) 医師・看護職員の職員数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	5	2.1	47	0.4	3	0	10	1.6

(3) 診療科目 (令和4年(2022年)7月1日時点)

内科,循環器内科,消化器内科(胃腸内科),外科,整形外科,小児科,眼科,泌尿器科,リウマチ科,リハビリテーション科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

- 1 当院は、佐久医療圏の川西地区において唯一入院機能を有する医療機関であり、地元自治体の支援を受けながら地域に根差した医療を提供している。
- 2 地域の高齢化の進展に伴い、当院の患者の大多数が高齢者であることから、内科・整形外科的な疾患や回復期・慢性期の入院患者に対する医療を提供している。

②課題

- 1 高齢化がより一層進展することから、当院の役割を果たすためには、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症への対応のほか、サブアキュート・ポストアキュート・かかりつけ医の機能の強化や在宅医療・ターミナルケア・ケアミックス型サービスへの充実が求められている。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

1 かかりつけ医や急性期病院と連携し、在宅復帰に向けたサブアキュート、ポストアキュートを推進する。 2 訪問看護業務を展開し、地域が求める在宅医療やターミナルケアの充実を図る。 3 地域の社会福祉施設や行政と連携し、ケアミックス型のサービスを提供する。
--

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

--

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④「再稼働」を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

「検討中」を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

--

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	51	51	0		51	0	0	
慢性期	33	33	0		33	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止	0	0	0		0	0	0	
介護施設等への転換	0	0	0		0	0	0	
合計	84	84	0		84	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

病床転換について

令和5年9月1日 川西赤十字病院

地域の医療ニーズに応ずるため次のとおり病床を転換します。

1 内容

- ① 一般病棟
 - ・ 一般病床を5床に減床。
 - ・ 地域包括ケア病床を41床に増床。
 - ・ 3床を休止。
- ② 療養病棟
 - ・ 介護療養病床8床を医療療養病床に転換。
- ③ 転換後の病床

(床)

病棟種別	病床種別	変更前	変更後	比較
一般病棟	一般病床	19	5	▲14
	地域包括ケア病床	30	41	11
	小計	49	46	▲3
療養病棟	医療療養病床	25	33	8
	介護療養病床	8	0	▲8
	小計	33	33	0
合計		82	79	▲3

※ 一般病棟の休止病床 2床から5床へ変更。

2 実施日

令和5年10月1日(予定)

丁 午 丁 酉 庚 辰 庚 申

庚辰年十月廿三日

庚辰年十月廿三日

姓名	
性别	
出生年月日	
出生地点	
职业	
住址	
联系电话	
电子邮箱	
其他事项	

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

4

医療機関名:

佐久市立国保浅間総合病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
278	238	40	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
278	0	133	55	40	0

(2) 医師・看護職員の職員数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	55	8.6	234	20.4	6	1.3	34	10.4

(3) 診療科目 (令和4年(2022年)7月1日時点)

内科,循環器内科,糖尿病内科(代謝内科),外科,循環器外科(心臓・血管外科),脳神経外科,整形外科,形成外科,小児科,産婦人科,眼科,耳鼻いんこう科,皮膚科,泌尿器科,精神科,歯科,歯科口腔外科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科,病理診断科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

国保直診の公立病院として佐久地方の地域医療・救急医療を64年間担ってきた。現在は急性期・回復期・慢性期及び在宅介護・医療をカバーするケアミックス型の地域医療を展開している。二次救急医療機関として年間1,600から2,000台の救急車を収容している。また、佐久医師会と協力し休日小児急病センター、平日夜間診療(現在休止中)も開設し運営をサポートしている。各診療科も主に急性期医療に重点を置いた診療を展開している。糖尿病科は開院以来の伝統を發展させ最新治療を提供するのみならず、教育施設として地域の人材育成にも貢献している。外科は主に消化器疾患の手術治療を担っている。産婦人科は域内の出産の約半数を扱い、需要の増加している不妊症治療にも注力している。循環器内科、脳神経外科でもカテーテル治療を中心にした急性期医療を展開している。小児科では小児感染症疾患の治療を中心に、発達外来、夜尿症外来など専門外来も展開して地域の需要に responding している。眼科では涙道疾患治療に特色があるが、主力の白内障手術は3か月待ちの状態である。歯科の障害者診療、訪問歯科診療も公立病院で担う事業と考えている。健康管理課でのコロナワクチン接種事業は27,000回を超え、内科のコロナ患者診療とともに地域のコロナ対策に貢献している。

②課題

特に内科医師の確保が難しく、通常業務の縮小や内科当直の休診日が生じる可能性がある。圏域の二次救急病院と連携して、輪番制の導入などを模索しながら、協力して地域医療を守る必要がある。若手医師の確保には将来性のあるビジョンや設備の提示が必須であるが、働き方改革を踏まえた、ワークライフバランスのとれた労働環境の整備も必要となる。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	○
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	◎
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

急性期・地ケア中心の病院運営への転換を行う。また、地域の状況に応じ将来的な介護医療院への転換等について検討を行う必要がある。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④〔再稼働〕を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

〔検討中〕を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	183	183	0		183	0	0	
回復期	55	55	0		55	0	0	
慢性期	40	0	-40		0	-40	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		40	40		40	40	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	278	238	-40		238	-40	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

5

医療機関名：

くろさわ病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
83	37	46	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
83	0	37	46	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	7	5.1	65	7	7	0	15	1

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,外科,整形外科,形成外科,婦人科,皮膚科,泌尿器科,リウマチ科,リハビリテーション科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は病床数83床の小規模病院ですが、急性期、回復期から在宅医療に至るまで、地域に根差した継続した医療・介護を提供し、あらゆる角度から患者さんや地域の皆様を支えていくことが最大の目標です。医療・保健・福祉の3つを大軸に、内科、整形外科を中心とした救急車の受け入れや整形外科・形成外科手術、ワクチン接種や健診、脳血管疾患やロコモティブシンドローム（運動器症候群）対策、介護予防事業、などの広範囲のリハビリテーションを実施しています。開業医の先生と連携し在宅でのバックアップ体制や在宅医療や施設への往診等も実施しております。

当院、整形外科での入院患者は2020年度以降40～60歳の年齢層の割合が増加し入院期間も短縮される傾向にあります。初診病名となりますが地域での肩関節や下肢関係の疾患による当院への医療ニーズが高い傾向にあります。

②課題

- ・医療従事者の確保、質の向上（薬剤師、看護師、看護補助者の確保し継続し将来の病院像を見据えた教育）
- ・医師の高齢化
- ・医療従事者の働き方改革を推進し、DX化やワークシェアリングの導入などの効率化推進

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	◎
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

・佐久地域の医療ニーズとして年間300件程度の外傷系の救急搬送や年間700件の手術、特に整形での高齢者の骨折を含め肩、下肢等専門的な手術を実施し肩関節では全国的にも高い医療ニーズがある。更に人工関節手術においてはロボット支援手術を導入し地域で実施していない下肢骨切り術も実施している。手術だけでなく在宅復帰や施設へ帰る場合においても、隙間の無い継続したリハビリテーションが必要のため在宅を含めた長い目で見た医療提供が必要となり、地域へ貢献できると考えます。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

① 非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
有
無

② 非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③ 非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④ 「再稼働」を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

「検討中」を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	37	37	0		37	0	0	
回復期	46	46	0		46	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	83	83	0		83	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

8

医療機関名：

医療法人雨宮病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
54	54	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
54	0	0	54	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	2	28	21	6	4	3	5	8

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,外科,整形外科,形成外科,皮膚科,泌尿器科,アレルギー科,リウマチ科,リハビリテーション科,放射線科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

患者さま本意の『病院創り』

私たちは医の原点に立ち、病める方々のために、医師・看護師・その他医療従事者が一体となって誠意と技術を傾注する、患者さま本意の病院を目指しています。

特に整形外科、リハビリテーション科には力を注ぎ、人工関節置換術、靭帯断裂形成術、関節鏡手術等、多くの症例を手がけています。またスポーツ分野では、年間を通してサッカークリニック・サッカー教室、野球クリニック・スポーツ教室等の事業を展開し障害予防に力を入れ、介護分野においても介護教室・体操教室等を多数開催しフレイル予防に協力しています。

②課題

人材確保や施設の老朽化など問題があります。人材確保では医師、看護師、薬剤師等の確保ができていく状況です。老朽化に関しては、水まわりなど基本的なものから、時代の変化とともに変わってくるニーズに、ハード面に対応しきれないところです。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

地域に根差した地域包括ケアの拠点となりうる医療体系を継続するとともに、医療と介護、福祉との連携や地域の一次医療機関としての役割もより一層がんばっていく。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④（再稼働）を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

（検討中）を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	54	54	0		54	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	54	54	0		54	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

11

医療機関名： 佐久穂町立千曲病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
97	52	45	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
97	0	0	52	45	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	6	3.7	60	4.2	6	1.2	12	0.8

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科（胃腸内科）,脳神経内科,外科,整形外科,小児科,眼科,皮膚科,泌尿器科,リウマチ科,放射線科,麻酔科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

町立病院としてまた、南佐久各町村との行政間連携を補完する立場の病院として、1次救急及び1.5次救急を担い、なおかつ1次医療及び診断、総合的医療を実施して適切な医療に結びつける役割が求められ実施している。併せて、町民の高齢化に伴う在宅医療をしっかり担う役割が求められ実施している。さらには、近隣の2次・3次急性期医療を担う医療機関の後方支援を担う役割を果たしている。

教育機関と連携し、移住促進を進めて人口減少の進行を遅らせる取り組みを引き続き実施するとともに、移住する医療関係者の就業の場としての専門職確保を進めている。

②課題

地域に必要な診療科の体制と、在職医師の専門領域のバランスが一致しておらず、また医師の平均年齢が高く、将来を担う年齢層の医師及び必要とされる専門科の医師確保が重要となっている。併せて、高齢者人口が減少していく中で必要病床数の再編が必要となっている。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	○
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

地域に根差した軽症から中等症の患者及び高齢者・障がい者の医療を担い、引き続き小児から成人までの保健予防活動に力を注ぐ病院として、また公立病院としての役割をしっかりと果たせる病院として機能させていく方針。

(2) 2025年における非稼働病棟への対応

①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無
有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

③非稼働病棟における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病棟を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病棟の方針が未定の場合のみ選択

④【再稼働】を選択した場合：再稼働後の当該病棟における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

【検討中】を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	52	52	0		52	0	0	
慢性期	45	27	-18	2023年10月	27	-18	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止	0	0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		18	18	2023年10月	18	18	0	
合計	97	79	-18		79	-18	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

佐久穂町立千曲病院公立病院経営強化プランの概要について

千曲病院は、昭和55年5月に現地にて新病院として診療開始後改修を重ね、平成28年6月に大規模改修が終了して現在の体制となった。

昭和55年に一般病棟125床として開始後、平成2年に120床、平成10年に117床、平成26年に97床と地域人口・高齢化の変遷とともに病床数を減少させてきた。今後の近隣地域人口の減少・高齢者人口減少を見込むと共に、3階医療療養病床に入院される方々の医療依存度・介護認定の認定率等を勘案し、令和5年10月1日付で医療療養病床45床の内18床を病床削減し、介護保険適用の介護医療院に転換を図る予定である。

一方、平成17年の佐久町・八千穂村町村合併後の佐久穂町立千曲病院としては、決算剰余金を一度も計上することができなかった。そのことに追い打ちをかけるように、令和2年度には未知のウイルスとしての新型コロナウイルスの蔓延が始まり、その対応処置の結果診療制限が大きく経営を圧迫し、減収対策企業債の起債及び一時借入金を町より借り入れる経営状況となってしまった。

このような状況もあり令和2年度より準備を始め、令和3年度において病院事務責任者を民間より登用する取り組みを開始した。方向性としては、費用を抑えることを優先せず、必要な事を積極的に取り組み、病院の理念である「地域の人たちに信頼され、愛される病院」を本質的に追及する姿勢の共有を最優先に掲げた。また佐久穂町に限らず、南佐久郡各町村との連携を深め、要望には可能な限り応じる姿勢を職員間に徹底した。そのことから、職員の意識にも変化が現れ、患者数も増加に転じた。また、職員の自信にもつながった。

そのことに並行して人との繋がりの中から、将来に向けての診療体制の構築を進め、令和3年度中に常勤医師1名、非常勤医師1名の就業及び令和4年4月には常勤医師2名の就業、人材育成目的での理学療法士1名の就業に繋げてきた。令和4年度には事業継続性を考慮し、大学病院との連携を強化し、令和5年度に向けて専門科の診療体制構築を進め、眼科診療体制が確立してきた。令和5年秋には小児科医の常勤化が決定し、引き続き将来に向けての体制づくりとして、整形外科医の令和6年度に向けての常勤化、次世代を担う総合内科医の確保に向けて継続取組中である。令和4年度末には、MRI画像診断装置の導入も済み、医師確保と並行して必要な医療機器・機材の整備を積極的に進めていく。

一方で町立病院独自の取り組みとして、教育現場との連携及び移住者支援の一環として町担当課と連携を密にして、移住者である医療専門職確保対応を積極的に進めている。当町には公立学校・町立保育園と共に、私立小中学校及び認定こども園が存在し、そこには子供を入学・入園させるために、医療専門職

である親と一緒に移住してくる環境があり、その連携により他町村では想定できない専門職確保の環境が存在する。学校のホームページには、当院ホームページへのリンクを貼っていただいております、入学説明会等でも当院を紹介いただく事としている。令和4年度には令和5年度に向けて、医師就業の問い合わせが生まれたが、来られる医師の専門性等を考慮し、他院への紹介を優先した。今後も毎年想定できる事象であり、連携を密にした移住促進を積極的に進めていく予定である。

令和3年10月より地域福祉関係を強化するため、地域医療福祉部門を看板部署として設置して、居宅介護支援、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問診療及び地域医療連携室を一元化し、将来的には障害福祉部門も想定した病院の枠にとらわれない、地域に向けた福祉の向上を目指す部門として取り組みを膨らませていく予定である。現在すでに「訪問超音波検査」を開始しており、今後も新しい発想の中での新規取組事業を進めてしていく。併せて、当院の特長でもある上部・下部内視鏡検査を中心とした消化器科診療を、地域ブランドにしていく取り組みを進めていく。

それらのこととは別に、当院の位置づけは近隣医療機関との連携（主に前方支援・後方支援）の中で成り立っている病院であり、看護師等も近隣医療機関附属の教育機関・近隣大学での教育があつてこそ人材確保が進められている状況で、関係性を強化し地域内就労を進めていくことが必須である。

以上のことをふまえ、経営強化プランを作成していく予定である。

令和5年6月21日
佐久穂町立千曲病院
事務長 竹内 俊文

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

109

医療機関名： 医療法人柳泉会 柳橋脳神経外科

1. 自院の現状

(1) 許可病床数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
13	13	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
13	0	0	0	13	0

(2) 医師・看護職員の職員数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	1	6	0	5	1	2	0

(3) 診療科目 (令和4年(2022年)7月1日時点)

脳神経外科・外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科・神経科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

脳神経外科専門の医療機関として発足しましたが現在では頭痛、老人病、認知症等地域に密着した医療機関としての役割を果たしております。また救急医療期間としての役割も担ってゆこうと考えております。更に老健、グループホーム、サ高住等介護施設を併設し、その後方医療機関としての役割を担っており隙間のない医療、介護を実施すべく体制を作り上げてゆこうとしています。

②課題

最大の課題は従業員の確保です。「何K」とか言われて久しく、新たに就業しようとする人は皆無に等しい状態です。国の施策として抜本的な対策を強く望むものです。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者(サブアキュート)や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者(ポストアキュート)の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者(重度の障がい者(児)を含む)に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関(例:産婦人科、精神科等)	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

頭痛、認知症の治療、脳ドックに力を入れる。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無(2022.7.1時点)

非稼働病床の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択(一部のみ再稼働する場合もこちらを選択)
廃止	←廃止する場合、こちらを選択(非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択)
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④「再稼働」を選択した場合:再稼働後の当該病床における役割等を記載(担う役割、医療従事者の確保見込み等)

「検討中」を選択した場合:方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点(A)	2025年(B)	現在との差(B-A)	変更時期1(※)	2030年(C)	現在との差(C-A)	2025年との差(C-B)	変更時期2(※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	0	0	0		0	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	13	7	-6		7	-6	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		6	6	2024年4月	6	6	0	
合計	13	7	-6		7	-6	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例:2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

110

医療機関名： 花岡レディースクリニック

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
14	14	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
14	0	14	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	0	12	1	0	0	3	0

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

産科,婦人科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

月30件を超えない範囲での正常分娩、合併症がない帝王切開術に対応。県内在住者に限り夫立ち合い分娩のみ可能。里帰り分娩は里帰り後2週間経過ののち受入可能。母子の安全を守り、一生の思い出となる出産を経験できるクリニックを目指すという看護目標を掲げ、患者様一人ひとりに寄り添った安全で優しい医療提供・サービスを実践している。

②課題

院長以外女性スタッフばかりなため、状況により産休・育休・療養などによりスタッフ数が足りず、分娩受入数を大幅に減少させる、もしくは対応できなくなる構成がある。県内助産師育成大学が大卒者のみ入学可能となっていく現状、助産師育成数自体も減少しているため、有床診療所を選択する人員も減少する可能性がある。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者(サブアキュート)や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者(ポストアキュート)の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者(重度の障がい者(児)を含む)に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関(例:産婦人科、精神科等)	◎
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

可能な限り分娩取扱施設として有床診療所を維持しつつ、女性特有疾患のかかりつけ医としてがん検診・性行為感染症などのスクリーニングを行えるよう近隣市町村と連携して診療を行っていききたい。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無(2022.7.1時点)

非稼働病床の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択(一部のみ再稼働する場合もこちらを選択)
廃止	←廃止する場合、こちらを選択(非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択)
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④(再稼働)を選択した場合:再稼働後の当該病床における役割等を記載(担う役割、医療従事者の確保見込み等)

{検討中}を選択した場合:方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	14	14	0		14	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	14	14	0		14	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例:2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

111

医療機関名：

中澤眼科クリニック

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
6	6	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
6	0	6	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	0	2	2.8	0	0	0	0

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

眼科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

眼科専門の有床診療所であり、主に白内障の手術を実施している。

②課題

特になし

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	◎
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

現状維持とする。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④〔再稼働〕を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

〔検討中〕を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	6	6	0		6	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	6	6	0		6	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

112

医療機関名:

博愛こばやし眼科

1. 自院の現状

(1) 許可病床数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

① 病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
3	3	0	0	0	0

② 病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
3	0	3	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数 (令和4年(2022年)7月1日時点)

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	4	4	1	1	0	10	0

(3) 診療科目 (令和4年(2022年)7月1日時点)

眼科

(4) 自院の特徴と課題

① 特徴

白内障手術を年間1500件以上、それ以外の手術も入れると2000件近く手術を行っており、長野県内でも有数の施設である。主に周術期の管理目的で病床を活用している。

② 課題

病床が不足する時がある。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	○
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者(サブアキュート)や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者(ポストアキュート)の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者(重度の障がい者(児)を含む)に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関(例:産婦人科、精神科等)	◎
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

今まで通りの診療を継続。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無(2022.7.1時点)

非稼働病床の有無
有
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択(一部のみ再稼働する場合もこちらを選択)
廃止	←廃止する場合、こちらを選択(非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択)
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④(再稼働)を選択した場合:再稼働後の当該病床における役割等を記載(担う役割、医療従事者の確保見込み等)

{検討中}を選択した場合:方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2),③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	3	3	0		3	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	3	3	0		3	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例:2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

113

医療機関名： 医療法人山月会小諸医院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
19	19	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
19	0	19	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	2	0	1	0	1	0	1	0

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,循環器内科,消化器内科,外科,消化器外科,肛門外科,小児科,リハビリテーション科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

地域医療構想に従い、2022年3月に医療法人山月会小諸病院を、小諸医院（有床診療所）および小諸病院介護医療院へ転換いたしました。各診療科を横断的に、かつ小児から高齢者まで幅広く対応する「かかりつけ医」として診療を行います。そして介護医療院と一体的に運営することで、在宅支援診療所として地域に貢献してまいります。

②課題

看護スタッフの人材確保

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者(サブアキュート)や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者(ポストアキュート)の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者(重度の障がい者(児)を含む)に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関(例:産婦人科、精神科等)	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	◎

【具体的な今後の方針】

地域医療構想に従い、2022年3月に医療法人山月会小諸病院から小諸医院および小諸病院介護医療院へ転換しております。小諸医院と小諸病院介護医療院を合わせて、かかりつけ医としての役割と在宅診療における役割を担い、地域の医療と介護に貢献できるように努めてまいります。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

① 非稼働病床の有無(2022.7.1時点)

非稼働病床の有無
有無
無

② 非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③ 非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択(一部のみ再稼働する場合もこちらを選択)
廃止	←廃止する場合、こちらを選択(非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択)
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④ 「再稼働」を選択した場合:再稼働後の当該病床における役割等を記載(担う役割、医療従事者の確保見込み等)

「検討中」を選択した場合:方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点(A)	2025年(B)	現在との差(B-A)	変更時期1(※)	2030年(C)	現在との差(C-A)	2025年との差(C-B)	変更時期2(※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	19	19	0		19	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	19	19	0		19	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例:2027年7月)